RT57i

ブロードバンドVoIPルーター

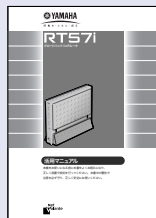
設定マニュアル

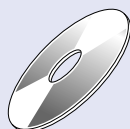
本機をお使いになる前に本書をよくお読みになり、正しく設置や設定を行ってください。本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。

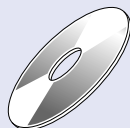
付属マニュアルのご案内

本機の機能を十分に活用していただくために、下記のマニュアルを用意致しました。目的にあわせてマニュアルをお選びください。

設定マニュアル(本書)

本機を使い始めるときに読むマニュアルです。
設置のしかたや設定のしかただけでなく、CATV/ADSLなどのブロードバンドルータ、ISDNルータとしての基本的な使いかたについて説明しています。

活用マニュアル

本機の機能を活用するために読むマニュアルです。
電話、FAX、ルータとしての代表的な使いかたについて、その解説と設定方法を説明しています。本機独自のNetVolanteインターネット電話機能などのインターネットを利用した音声通話(VoIP)については、この「活用マニュアル」をご覧ください。

困ったときは(PDF形式)

本機のトラブル発生時の対策や、サポート窓口のご案内について、まとめて説明しています。

コマンドリファレンス(PDF形式)

コマンドを使って高度な設定を行いたいときに読むマニュアルです。
本機のコンソールコマンドについて解説しています。

マークのマニュアルは付属のCD-ROMにPDF形式で収録しており、お読みになるにはAcrobat Readerが必要です。先にCD-ROMのAcrobat Readerをインストールしてください。
詳しくは活用マニュアル(別冊)の「Acrobat Readerで説明書を読む」(2ページ)をご覧ください。

重要なお知らせ

プロバイダ契約について

本機をルータとしてお使いになる前(または新たにプロバイダ契約を行う前)に、必ずルータ経由による複数パソコンの同時接続が、プロバイダによって禁止されていないかどうかご確認ください。**プロバイダによっては、禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。**
禁止されている場合は、プロバイダと別途必要な契約を行うか、同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

通信料金について

本機をダイヤルアップルータとしてお使いになる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。本機をパソコンやLANに接続した場合、本機はパソコンのソフトウェア(電子メールソフトウェアやWebブラウザなど)が送信するデータや、LAN上を流れるデータの宛先を監視します。LAN外の宛先があると、あらかじめ設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。
そのため、**設定間違いや回線切断忘れがあった場合、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダの接続料金がかかる場合があります。**
ときどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかご確認ください。また、本機の設定やリビジョンアップなどの最新情報を得るために、定期的にNetVolanteシリーズのホームページ(http://NetVolante.jp/)をご覧になることを強くおすすめいたします。

以下の場合に、予想外の通信料金がかかっている場合があります

- 本機を使い始めたとき
- 本機のプロバイダ接続設定を変更したとき
- MP接続を設定したとき
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールしたとき
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続したとき
- 本機のファームウェアをリビジョンアップしたとき
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じたときなど

ご注意

- プロバイダ契約を解除／変更した場合は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないままお使いになると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。
- プロバイダ側の状態(アクセスポイントの変更、メンテナンス、障害など)によって、予想外の通信料金がかかる場合があります。プロバイダからの告知情報には常にご注意ください。

本機の料金情報や
累積接続時間管理について

本機をISDN回線に接続して使用する場合、料金情報に基づく累積料金額による発信制限や、累積接続時間による発信制限をかけることができます。これらの機能は、ISDN回線を通して通知される料金情報や本機が計算する累積接続時間に基づいて行われるため、サービス割引などによる異なる料金算出方法や、プロバイダ独自の通信時間算出方法には対応できません。
従って、実際の運用においては、発信制限動作が意図した通りにならない場合があります。正確を期す場合は、一定期間試験運用をするなどしてずれがないかを確認してください。

セキュリティ対策と本機の
ファイアウォール機能について

インターネットに接続すると、世界中のホームページを閲覧したり、電子メールで自由に情報を交換したりすることができ、とても便利です。しかし同時に、お使いのパソコンに対する世界中からの不正アクセスの危険にさらされることになります。
特にインターネットに常時接続したり、サーバなどを公開したりする場合には、その危険性を理解して、必要なセキュリティ対策を行う必要があります。本機にはそのためのファイアウォール機能を装備していますが、不正アクセスの手段や抜け道(セキュリティホール)は、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。**インターネット接続には、常に危険がともなうことをご理解いただくとともに、常に新しい情報を入手し、自己責任でセキュリティ対策を行うことを強くおすすめいたします。**

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波について

JIS C 61000-3-2適合品

JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性−第3-2部：限度値−高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

輸出について

本製品は「外国為替及び外国貿易法」で定められた規制対象貨物(および技術)に該当するため、輸出または国外への持ち出しには、同法および関連法令の定めるところに従い、日本国政府の許可を得る必要があります。

目次

本書の表記について

マークの意味

本書では、本機を安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示していますので、必ずお読みください。

警告

人体に危険を及ぼしたり、装置に大きな損害を与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。

注意

機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

略称について

本書ではそれぞれの製品について、以下のように記載しています。

- YAMAHA RT57i：本機
- Microsoft® Windows®：Windows
- Microsoft® Windows 98 Second Edition®：Windows 98SE
- Microsoft® Windows NT®：Windows NT
- Microsoft® Windows 2000®：Windows 2000
- Microsoft® Windows Millennium Edition®：Windows Me
- Microsoft® Windows XP®：Windows XP
- INSネット64：ISDN
- 10BASE-T（100BASE-TX）ケーブル：LANケーブル

設定例について

本書に記載されているIPアドレスやドメイン名、URLなどの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

商標について

- イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- Apple 、Macintosh、MacOSは米国Apple社の登録商標および商標です。
- Microsoft 、Windowsは米国Microsoft社の米国およびその他の国における登録商標です。
- Adobe 、Acrobatは米国Adobe Systems社の登録商標です。
- INSネット64は日本電信電話株式会社の登録商標です。
- Stac LZSは米国Hi/fn社の登録商標です。
- 本製品は、RSA Security Inc.のRSA® BSAFE™ ソフトウェアを搭載しております。
  RSA はRSA Security Inc.の登録商標です。
  BSAFE はRSA Security Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

安全にお使いいただくために

本機を安全にお使いいただくために、下記のご注意をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

⚠警告

- 本機は家庭および一般小規模オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するようには設計されていません。
  誤って本機を使用した結果、発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、およびACアダプタや電源コードが発熱しているときは、直ちにACアダプタをコンセントから抜いてください。そのまま使用を続けると、火災や感電のおそれがあります。
- 濡れた手でACアダプタや電源コードを触らないでください。感電や故障のおそれがあります。
- 電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ACアダプタは必ず本機に付属のもの(P9V1.1A)をお使いください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 付属のACアダプタは日本国内用AC100V（50/60Hz)の電源専用です。他の電源で使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- 安全のため、ACアダプタは容易に外すことのできるコンセントに接続してください。
- 本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- 本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 本機の通風口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や故障の原因となります。
- 電源を入れたままケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- 本機のTELポートやISDNポートに指や異物を入れないでください。感電や故障、ショートの原因となります。
- 本機を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、ACアダプタやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。

⚠注意

- 直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- 極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、ACアダプタをコンセントから抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。アース接続は必ず、ACアダプタをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ずACアダプタをコンセントから取りはずしてから行ってください。
- 本機を修理や移動等の理由により輸送する場合には、必ず本機の設定を保存してください。

使用上のご注意

- ダイヤルアップルータはプロバイダ接続のために自動的に電話をかける機能を持った装置であり、本機にも自動的に電話をかける機能があります。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめ製品の機能や動作をよく理解した上でご使用ください。本機の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- メール確認や転送を設定すると定期的にインターネットへ自動接続を行うので、その度に通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめご理解いただいた上で、この機能を設定およびご使用ください。
- 自動接続が設定されている場合に、「かんたん設定ページ」のネットボランチロゴをクリックすると、インターネットへ自動接続します。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかりますので、あらかじめご理解いただいた上で、この機能をご使用ください。
- 本機に接続した電話機は、停電時に通話できません。停電時に110や119などの緊急通話が必要な場合は、別回線の電話機や携帯電話などをお使いください。
- 本機のTELポートにはモデムを接続して使用することができますが、モデムの最高通信速度で接続できるとは限りません。モデムの通信速度は、その時の通信回線の環境や相手先の機器との相性によって決まりますので、モデムの最高性能よりも遅い速度でしか接続できない場合があります。
- 本機のご使用にあたり、周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。この場合は本機の設置場所、向きを変えてみてください。
- 本体を横置きに設置する場合には、必ずスタンドを取り外してください。また、ラベル面は下になるようにし、上部には何も積み重ねて置かないでください。
- 本機を譲渡する際は、マニュアル類も同時に譲渡してください。
- 本機を廃棄する場合には不燃物ゴミとして廃棄してください。または、お住まいの自治体の指示に従ってください。

ヤマハルーター製品のお客様サポートについて（サポート規定）

ヤマハ株式会社はルーター製品を快適に、またその性能・機能を最大限に活かしたご利用が可能となりますように以下の内容・条件にてサポートをご提供いたします。

1.サポート方法

①FAQ、技術情報、設定例、ソリューション例等のWeb掲載
②電話でのご質問への回答
③メールでのご質問への回答
④カタログ送付
⑤代理店・販売店からの回答
ご質問内容によっては代理店・販売店へご質問内容を案内し、代理店・販売店よりご回答させていただく場合がありますので予めご了承のほどお願い致します。

2.サポート項目

①製品仕様について
②お客様のご利用環境に適した弊社製品の選定について
③簡易なネットワーク構成での利用方法について
④お客様作成のconfigの確認、及びlogの解析
⑤製品の修理について
⑥代理店または販売店のご紹介

3.免責事項・注意事項

①回答内容につきましては正確性を欠くことのないように万全の配慮をもって行いますが、回答内容の保証、及び回答結果に起因して生じるあらゆる事項について弊社は一切の責任を負うことはできません。
また、サポートの結果又は製品をご利用頂いたことによって生じたデータの消失や動作不良等によって発生した経済的損失、その対応のために費やされた時間的・経済的損失、直接的か間接的かを問わず逸失利益等を含む損失及びそれらに付随的な損失等のあらゆる損失について弊社は一切の責任を負うことはできません。
尚、これらの責任に関しては弊社が事前にその可能性を知らされていた場合でも同様です。但し、契約及び法律でその履行義務を定めた内容は、その定めるところを遵守するものと致します。
②ファームウェアの修正は弊社が修正を必要と認めたものについて生産終了後2年間行います。
③質問受付対応、修理対応は生産終了後5年間行います。
④実ネットワーク環境での動作保証、性能保証は行っておりません。
⑤期日・時間指定のサポート、及び海外での使用、日本語以外でのサポートは行っていません。
⑥お問い合わせの回答を行うにあたって、必要な情報のご提供をお願いする場合があります。情報のご提供がない場合は適切なサポートができない場合があります。
⑦再現性がない、及び特殊な環境でしか起きない等の事象に関しては、解決のための時間がかかったり適切なサポートが行えない場合があります。
⑧オンサイト保守・定期保守等は代理店にて有償にて行います。詳細な内容は代理店にご確認をお願い致します。
⑨他社サービス、他社製品、及び他社製品との相互接続に関してのサポートは弊社Web上に掲載している範囲に限定されます。
⑩やむを得ない事由によりヤマハルーターの返品・交換が生じた場合は、ご購入店経由となります。尚、交換、返品に際しましてはご購入店、ご購入金額を証明する証憑が必要となります。
⑪製品の修理は代理店・販売店経由で受付けさせて頂きます。弊社への直接持ち込みはできません。また、着払いでの修理品受付は致しておりません。発送は弊社指定の通常宅配便(国内発送のみ)にて行わせて頂きます。修理完了予定期間は変更になる場合がありますのでご了承のほどお願い致します。尚、保証期間中の無償修理(無償例外事項)等の詳細規定は保証書に記載しております。
⑫上記サポート規定は予告なく変更されることがあります。

第1章

はじめに

Getting Started

ネットボランチRT57iでできること

本機は、ブロードバンドルータ、ダイヤルアップルータ、TELポート、DSUの機能をすべて内蔵した、多機能ルータです。ISDNのダイヤルアップ接続からCATV／ADSL接続、専用線接続まで、さまざまなインターネット接続方法に対応できます。より高速な回線で接続したいときにも、本機の設定変更のみで対応できます。

ブロードバンド&ISDN対応

FTTHやCATV、ADSLなどのブロードバンド回線用モデムに接続できるWANポートに加えて、ISDNダイヤルアップルータ機能を装備しています。「インターネットはCATV回線で接続し、電話はISDN回線」という環境でお使いの場合でも、本機1台で対応できます。

ファイアウォール機能

静的／動的の2種類のフィルタによるパケットフィルタリング機能で、外部からの不正アクセスに対してセキュリティを強化できます。不正アクセスや攻撃を検出した場合にお知らせする、不正アクセス検知機能も搭載しています。

インターネット経由の音声通話（VoIP通話）

通話の相手先がインターネット電話機能を持ったネットボランチシリーズルータを使用している場合には、プロバイダへの通信料だけでインターネットを経由して通話できます（NetVolanteインターネット電話）。
本機はUPnP（ユニバーサル・プラグ・アンド・プレイ）に対応しているため、Windows Messengerを利用した音声チャットも楽しめます。

PPTPによる仮想プライベートネットワーク

本機はPPTP（Point to Point Tunneling Protocol）に対応しているため、インターネット（ブロードバンド）回線を利用した仮想プライベートネットワーク（VPN）を構築する場合でも、より安全にデータをやり取りできます。
LANとLANをPPTP方式で接続するだけでなく（PPTP-LAN間接続）、外出先からPPTP方式でLANにリモートアクセスすることもできます。

メール着信確認／メール着信転送機能

登録したメールアドレスへのメール着信を通知するメール着信確認機能を搭載しているため、パソコンの電源を入れなくても、メール着信の有無を確認できます。メール着信を確認するだけでなく、着信したメールを携帯電話やPHSの電子メールなどの他のメールアドレスに転送できる、メール着信転送機能も搭載しています。

かんたん設定

本機は設定のためのホームページ「RT57iかんたん設定ページ」を内蔵しているため、本機の基本的な設定はパソコンのWebブラウザで変更できます。

充実のNetVolanteホームページ

NetVolanteホームページ(http://NetVolante.jp/)では、NetVolanteシリーズの最新情報や機能の設定方法、FAQ、リビジョンアッププログラムなど、NetVolanteを活用するための情報を満載しています。本機の「かんたん設定ページ」画面左上のネットボランチロゴをクリックするだけでアクセスできます。
また、ヤマハルータRTシリーズホームページ(http://www.rtpro.yamaha.co.jp/)では、RTシリーズルータを使った高度な活用例や詳しい解説がご覧いただけます。

その他多機能ルータとして便利な機能を装備

・ TELポートは2ポート装備しているので、今まで使っていた電話やFAX、モデムなどを接続できます。サブアドレスやフレックスホン、ナンバー・ディスプレイ、i・ナンバー、ダイヤルインなどのISDNサービスにも対応しています。
・ ご購入後に新しい機能が追加されても、本機内蔵ソフトウェアのリビジョンアップ(バージョンアップ)を行うことで、最新の機能が利用できます。

LANカード／HUBを用意する

本機をLAN接続で使う場合は、パソコンにLANポート（10BASE-Tまたは100BASE-TXポート）が必要です。お使いのパソコンにLANポートがない場合は、本機の設置を始める前に、10BASE-T（100BASE-TX）対応のLANボードまたはLANカード（PCカード）を取り付けて、LANポートを増設してください。
本機を設置する前に、あらかじめLANボードやLANカードの取扱説明書をご覧になり、正常に動作することを確認してください。正常に動作しない場合は、あらかじめLANボードやLANカードの問題を解決してから、本機を設置してください。

本機に5台以上のパソコンをLANケーブルで接続したいときは
市販の10BASE-T（100BASE-TX）対応のHUBまたはスイッチングHUBが必要になります。

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合は、拡張スロットにLANボードを取り付けます。拡張スロットには、PCIやISAなどの種類があるので、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧の上、対応したLANボードを取り付けてください。
購入時のチェックポイント
・ 対応OS（Windows 98SE/Me/2000/XP、MacOSなど）
・ スロットの種類（PCI、ISA、Cバス、Nubusなど）
・ コネクタの種類（10BASE-Tまたは10BASE-T/100BASE-TXなど）

ノート型パソコンの場合

ノート型パソコンの場合は、PCカードスロットにLANカードを取り付けます。
PCカードスロットの規格や添付ソフトに種類があるので、お使いのパソコンに対応したPCカード型LANカードを取り付けてください。
購入時のチェックポイント
・ 対応OS（Windows 98SE/Me/2000/XP、MacOSなど）
・ PCカードスロットの種類（CardBus、PCMCIA Type I/Type II/Type III）
・ コネクタの種類（10BASE-Tまたは10BASE-T/100BASE-TXなど）

インターネットへの接続方法を選ぶ

本機はさまざまな回線接続方法に対応しています。接続方法によって必要な回線契約やプロバイダ(インターネット接続業者)との接続契約が異なりますので、接続方法に合わせて説明をご覧ください。

ブロードバンド回線で

インターネットへ常時接続する　→17ページ

ISDN回線で

必要なときだけ
インターネットへ接続する　→33ページ

フレッツ・ISDNで

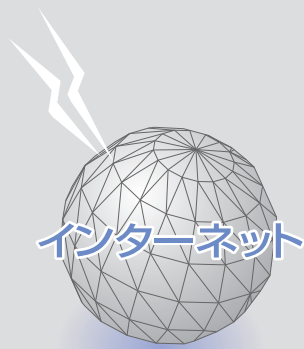
インターネットへ常時接続する　→49ページ

ネットワーク型接続サービス／専用線で

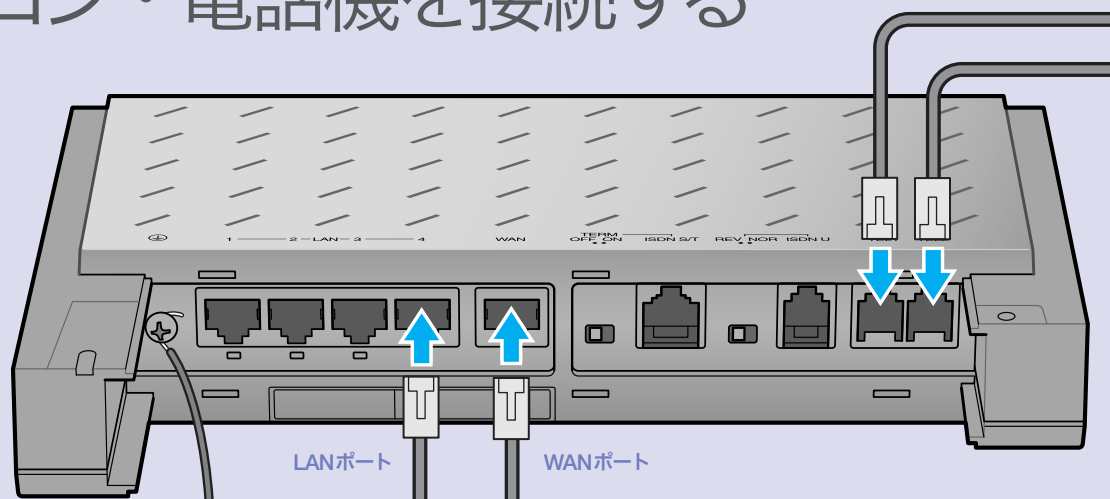
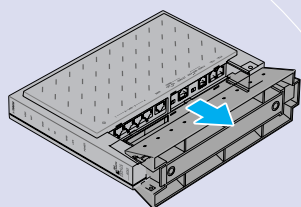
インターネットへ常時接続する

- **PPPoEネットワーク型接続**　→ 65ページ
- **unnumbered接続**　→ 65ページ
- **専用線接続**　→「活用マニュアル」118ページ

ご注意

- プロバイダ契約を解除／変更した場合は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないままお使いになると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 本機をルータとしてお使いになる前(または新たにプロバイダ契約を行う前)に、必ずルータ経由による複数パソコンの同時接続が、プロバイダによって禁止されていないかどうかご確認ください。プロバイダによっては、禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。禁止されている場合は、プロバイダと別途必要な契約を行うか、同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

第2章 ブロードバンド回線で常時接続する

フレッツ・ADSLやBフレッツなどの各種ADSL接続サービスや光ファイバ接続サービスを使用する場合は、この章をご覧ください。ネットワーク型PPPoE接続やunnumbered接続を使用する場合は、「第5章 ネットワーク型接続サービスで常時接続する（ネットワーク型ADSL・Bフレッツ接続）」（65ページ）をご覧ください。

準備1

ブロードバンド回線とパソコン・電話機を接続する

1
アース端子に市販のアースコードを接続する。

アース端子のネジを⊕ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定します。

ご注意

- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

2
パソコンのLANポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに接続したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

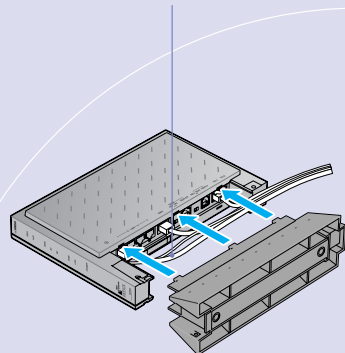
電話機、ファックス

ヒント

- パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T / 100BASE-TX 対応のLANケーブルをご用意ください。
- 5台以上のパソコンを接続する場合は、10BASE-T/ 100BASE-TX対応のHUB（またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、本機のDHCPサーバ機能を動作しないようにする必要があります。詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。

ケーブルモデムや
ADSLモデム、ONUなど

ケーブルはスタンドの溝に収めておく。

接続が終わったら、スタンドを元通りに取り付けます。

3 電話機を本機のTELポートに接続する。

電話機を本機に接続すると、VoIP通話機能を利用できます。詳しくは、別冊の「活用マニュアル」の「第3章 インターネット経由で通話する(VoIP通話)」(24ページ)をご覧ください。

ご注意

- 停電時にVoIP通話機能を使用することはできません。
- VoIP通話機能で110や119などの緊急通話をすることはできません。緊急通話が必要な場合は、別回線の電話機や携帯電話などをお使いください。
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は、正しく動作しません。

4 ケーブルモデムやADSLモデム、ONUのLANポートと本機のWANポートを、LANケーブルで接続する。

プロバイダの資料や、ADSLモデム、ONUの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

ケーブルモデムやADSLモデム、ONUとパソコンを直接接続している環境を本機との接続に切り替えたり、設置されていたルータを本機に置き換えた場合に、アドレスが取得できないなどの原因で正常接続できないことがあります。ケーブルモデムやADSLモデム、ONUによってはそうした環境の変更後には、何らかの設定やリセット操作、指定時間(例：20分以上)待つこと、などが必要となる場合があります。詳しくはそれらの取扱説明書の指示に従ってください。

準備2

電源を入れる

1
アースコードをコンセントのアース端子へ接続する。

ご注意

・アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
・アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

2
付属のACアダプタ（P9V1.1A）のコネクタを本機の電源コネクタに接続してから、ACアダプタをコンセントに接続する。

しばらくするとブザーが鳴り、本機の電源が入ります。

ご注意

ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると､火災や感電､故障の原因になります。

ブザーが鳴らない場合は

本機をお買い上げになった販売店にご連絡ください。

ACアダプタを取り外す場合は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

3
パソコンやHUBの電源を入れて、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

WANランプが点灯または点滅しない場合は

本機とADSLモデム（またはケーブルモデムやONU）が正しく接続されているかどうか、ADSLモデム（またはケーブルモデムやONU）の電源が入っているかどうか確認してください。

ご注意

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は「手動でネットワーク設定を変更する」(87ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

インターネットに接続する

本機の「かんたん設定ページ」で接続先を設定して、インターネットに接続します。

設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 セキュリティを強化する」(74ページ)をご覧ください。

プロバイダの設定資料を用意してください

接続先を設定してインターネットに接続するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です(接続方法によっては、必要のないものもあります)。

- ユーザID（認証ID、アカウント名）
- パスワード(認証パスワード、初期パスワード)
- IPアドレス
- ネットマスク
- ネームサーバアドレス(DNSサーバアドレス、ネームサーバIPアドレス、DNSサーバIPアドレス)
- デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を行うには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerなどのWebブラウザを使用します(お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます)。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows 98SE/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 6.0以降のWebブラウザが必要です。

MacOSの場合

Internet Explorer 5.0以降のWebブラウザが必要です。

ご注意

お使いのパソコンのOSによっては、インストールされているWebブラウザが上記のバージョンよりも古い場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

1　かんたん設定画面を開く

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。
他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1　**本機の電源が入っていることを確認する。**

2　**パソコンでWebブラウザを起動して、［ファイル］メニューから［開く］を選ぶ。**

3　**「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、［OK］をクリックする。**

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されます。

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されないときは

「困ったときは」(CD-ROM)の「3-1 かんたん設定ページを表示できない」をご覧ください。

ヒント

本機のIPアドレス(工場出荷状態では192.168.100.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。この場合は、「http://192.168.100.1/」と入力します。

2 接続方法を確認する

1 ［プロバイダ情報の設定］をクリックする。

本機のブロードバンド回線自動判別機能が動作して、接続した回線に合わせた接続方法が選ばれた画面が表示されます。

ご注意

- 本機のWANポートにブロードバンド回線を接続していない場合は、自動判別機能は動作しません。
- 回線自動判別機能を１度実行すると、次回から自動判別は行いません。

2

自動判別された接続方法を確認する。

A 「CATVインターネット、またはPPPoEを用いない端末型ADSL接続」が選ばれた場合

プロバイダの新規登録
◉ CATVインターネット、またはPPPoEを用いない端末型ADSL接続
○ PPPoEを用いる端末型ADSL接続(フレッツ・ADSL、Bフレッツ)

「CATVインターネット、またはPPPoEを用いない端末型ADSL接続」が選ばれる代表的な接続サービスは、以下の通りです。

- Yahoo! BB
- アッカ・ネットワークス(ADSLモデムがルータモードの場合)
- イー・アクセス(ルータタイプモデムの場合)
- プロバイダ独自のADSL接続サービス
- 各種CATVインターネット接続サービス

B 「PPPoEを用いる端末型ADSL接続(フレッツ・ADSL、Bフレッツ)」が選ばれた場合

プロバイダの新規登録
○ CATVインターネット、またはPPPoEを用いない端末型ADSL接続
◉ PPPoEを用いる端末型ADSL接続(フレッツ・ADSL、Bフレッツ)

「PPPoEを用いる端末型ADSL接続(フレッツ・ADSL、Bフレッツ)」選ばれる代表的な接続サービスは、以下の通りです。

- フレッツ・ADSL
- Bフレッツ
- アッカ・ネットワークス(ADSLモデムがブリッジモードの場合)
- イー・アクセス(ブリッジタイプモデムの場合)

何も選ばれなかった場合は

▶ブロードバンド回線の自動判別に失敗しました。

接続回線に合わせて「CATVインターネット、またはPPPoEを用いない端末型ADSL接続」または「PPPoEを用いる端末型ADSL接続(フレッツ・ADSL、Bフレッツ)」を選んでから、[次へ]をクリックしてください。
どちらかわからない場合は、契約書を確認するかプロバイダにお問い合わせください。

3

[次へ]をクリックする。

接続回線に合わせた設定画面が表示されます。
以下の設定は接続回線によって異なりますので、選んだ接続回線の説明をご覧ください。

A 「CATVインターネット、またはPPPoEを用いない端末型ADSL接続」が選ばれた場合 ▶26ページをご覧ください。

B 「PPPoEを用いる端末型ADSL接続(フレッツ・ADSL、Bフレッツ)」が選ばれた場合 ▶29ページをご覧ください。

A　3　プロバイダの情報を指定する

1 設定名を入力する。

接続先がわかるような名前を入力します。名前は自由に付けられますが、
あとで設定を修正する必要が出たときなどにわかりやすい名前にしておくと便利です。

2 WAN側IPアドレスを指定する。

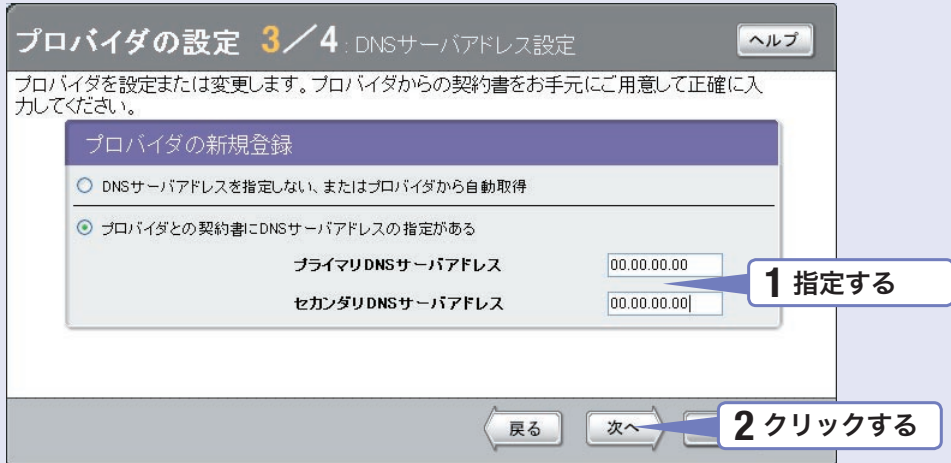
プロバイダからIPアドレスが指定されていない場合

「DHCPクライアント」をクリックして選びます。
プロバイダからDHCPクライアント識別名を指定されている場合は、「DHCPクライアント識別名」欄に指定された識別名を入力します(指定されていない場合は、入力する必要はありません)。

プロバイダからIPアドレスを指定されている場合

「指定IPアドレス」をクリックして選んでから、以下の設定を行います。
- **WAN側IPアドレス：**プロバイダから指定されたIPアドレスを、半角数字で入力します。
- **ネットマスク：**プロバイダから指定されたネットマスクを選びます。
- **デフォルトゲートウェイ：**プロバイダから指定されたデフォルト・ゲートウェイ・アドレスを、半角数字で入力します。

3 [次へ]をクリックする。

「プロバイダの設定3/4」画面が表示されます。

4 DNSサーバアドレスを指定する

1 **DNSサーバアドレスを指定する。**

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合

「DNSサーバアドレスを指定しない、またはプロバイダから自動取得」をクリックして選びます。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合

「プロバイダとの契約書にDNSサーバアドレスの指定がある」をクリックして選んでから、以下の設定を行います。

- **プライマリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスを半角数字で入力します。
- **セカンダリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスが2つある場合に入力します(1つだけ指定されている場合は、この欄は空欄にしてください)。

2 **[次へ]をクリックする。**

「プロバイダの設定4/4」画面が表示されます。

A 5 設定内容を確認して、インターネットに接続する

1 **表示された設定内容が、プロバイダから送付された設定資料と合っているかどうか確認する。**

誤って設定した内容がある場合は、[戻る]をクリックして必要な設定画面を表示して、正しく設定し直してください。

2 **[設定の確定]をクリックする。**

表示された確認画面で[トップへ戻る]をクリックすると、本機は自動的にインターネットに接続して「かんたん設定ページ」のトップページに戻ります。

3 **インターネットに接続しているかどうか確認する。**

画面下部の表示を見て、本機がインターネットに接続していることを確認してください。

設定終了

これでインターネットへの接続設定は終了です

▶インターネットに接続できない場合は

Check 1　本機とパソコン、ADSLモデムやケーブルモデムの接続を確認してください。

Check 2　26～27ページの設定内容をもう1度確認してください。

Check 3　それでも問題が解決しない場合は、「困ったときは」(CD-ROM)を参考にして、問題を解決してください。

B　3　プロバイダの情報を指定する

1

設定名を入力する。

接続先がわかるような名前を入力します。名前は自由に付けられますが、
あとで設定を修正する必要が出たときなどにわかりやすい名前にしておくと便利です。

2

ユーザIDを入力する。

プロバイダから指定された、接続用のユーザIDを入力します。必ず書類を確認して、間違いのないように入力してください。

ご注意

フレッツ・ADSLやBフレッツで接続する場合は、ユーザIDの後にプロバイダ名を入力する必要があります。詳しくはフレッツ・ADSLまたはBフレッツの契約の際にNTTから送付された資料や、プロバイダからの資料をご覧ください。
ユーザIDがusernameの場合の例：
username@provider.ne.jp
username@aaa.provider.ne.jp（サブドメインが付加される場合）

3

接続パスワードを入力する。

プロバイダから指定されたパスワード（または自分で変更したパスワード）を入力します。
半角英数字で、大文字小文字も正確に入力してください。
入力したパスワードの文字は●で表示されます。

4

［次へ］をクリックする。

「プロバイダの設定3/4」画面が表示されます。

B 4 DNSサーバアドレスを指定する

1 DNSサーバアドレスを指定する。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合

「DNSサーバアドレスを指定しない、またはプロバイダから自動取得」をクリックして選びます。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合

「プロバイダとの契約書にDNSサーバアドレスの指定がある」をクリックして選んでから、以下の設定を行います。

- **プライマリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスを半角数字で入力します。
- **セカンダリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスが2つある場合に入力します(1つだけ指定されている場合は、この欄は空欄にしてください)。

2 [次へ]をクリックする。

「プロバイダの設定4/4」画面が表示されます。

5　設定内容を確認する

1　**表示された設定内容が、プロバイダから送付された設定資料と合っているかどうか確認する。**

誤って設定した内容がある場合は、[戻る]をクリックして必要な設定画面を表示して、正しく設定し直してください。

2　**[設定の確定]をクリックする。**

「プロバイダの登録」画面が表示されます。

6　インターネットに接続する

1

［接続］をクリックする。

インターネットに接続して、「プロバイダへの接続・切断」画面が表示されます。
［トップへ戻る］をクリックすると、「かんたん設定ページ」のトップページに戻ります。

2

インターネットに接続しているかどうか確認する。

画面下部の表示を見て、本機がインターネットに接続していることを確認してください。

設定終了

これでインターネットへの接続設定は終了です

▶インターネットに接続できない場合は

Check 1　本機とパソコン、ADSLモデムやケーブルモデムの接続を確認してください。

Check 2　29～30ページの設定内容をもう1度確認してください。

Check 3　それでも問題が解決しない場合は、「困ったときは」(CD-ROM)を参考にして、問題を解決してください。

第3章

必要なときだけ電話をかけて接続する

（端末型ダイヤルアップ接続）

準備1

ISDN回線を接続する

本機のDSUを使って接続する

通常はこの方法で接続します。

1 TERMスイッチを「ON」に合わせる。

2 DSUスイッチを「ON」に合わせる。

3 回線のモジュラージャックと本機のISDN Uポートを、モジュラーケーブルで接続する。

本機のDSUを使って接続した場合に、他のISDN機器を接続したいときは

RT57i用クロスケーブル YRC-ST3X（別売り）を使用して、ISDN回線に接続したRT57iのISDN S/Tポートに TAやG4 FAXなどのデジタル通信機器を接続できます。

ご注意

- RT57iのISDN S/Tポートは給電に対応していませんので、給電を必要とする機器を接続しても正しく動作しません。
- YRC-ST3Xを使用する場合は、RT57iのTERMスイッチを「ON」、RT57iに接続したISDN機器の終端抵抗を「ON」にします。複数のISDN機器を接続する場合は、最遠端の機器のみ終端抵抗を「ON」にします。
- 詳しい接続方法については、YRC-ST3Xの取扱説明書をご覧ください。

ヒント
モジュラーケーブルは、市販の電話用ケーブルが使用できます(2極用、4極用、6極用いずれも可)。ただし、ビジネスホン専用の特殊な結線のケーブルは使用できません。

他のISDN機器のDSUを使って接続する

1 本機のみの接続の場合は、TERMスイッチを「ON」に合わせる。

複数のISDN機器を接続する場合は、最遠端の機器のみ終端抵抗を「ON」にします。

2 DSUスイッチを「OFF」に合わせる。

3 DSU(または他のISDN機器のS/Tポート)と本機のISDN S/Tポートを、ISDNケーブルで接続する。

準備2

パソコンと電話機を接続する

1 アース端子に市販のアースコードを接続する。

アース端子のネジを⊕ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定します。

ご注意

- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

2 パソコンのLANポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに接続したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

電話機、ファックス

ヒント

- パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T / 100BASE-TX 対応のLANケーブルをご用意ください。
- 5台以上のパソコンを接続する場合は、10BASE-T/ 100BASE-TX対応のHUB（またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、本機のDHCPサーバ機能を動作しないようにする必要があります。詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。

ケーブルはスタンドの溝に収めておく。

接続が終わったら、スタンドを元通りに取り付けます。

3 電話機を本機のTELポートに接続する。

電話機を本機に接続すると、ISDN回線を利用した通常の通話に加えて、VoIP通話機能を利用できます。詳しくは、別冊の「活用マニュアル」の「第3章 インターネット経由で通話する(VoIP通話)」(24ページ)をご覧ください。

ご注意

- 本機に接続した電話機は、停電時には通話できません。停電時に110や119などの緊急通話が必要な場合は、別回線の電話機や携帯電話などをお使いください。
- 停電時にVoIP通話機能を使用することはできません。
- VoIP通話機能で110や119などの緊急通話をすることはできません。
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は、正しく動作しません。

準備3

電源を入れる

1

アースコードをコンセントのアース端子へ接続する。

ご注意

- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

2

付属のACアダプタ（P9V1.1A）のコネクタを本機の電源コネクタに接続してから、ACアダプタをコンセントに接続する。

しばらくするとブザーが鳴り、本機の電源が入ります。

ご注意

ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

ブザーが鳴らない場合は

本機をお買い上げになった販売店にご連絡ください。

ACアダプタを取り外す場合は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

3 パソコンやHUBの電源を入れて、本機のLANランプとISDNランプが点灯または点滅することを確認する。

本機のLANランプとISDNランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

ISDNランプが点灯しない場合は

本機とISDN回線が正しく接続されているかどうか、本機のスイッチが正しく設定されているかどうか確認してください。

ご注意

・本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
・Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は「手動でネットワーク設定を変更する」(87ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

準備4

接続した電話機やFAXにあわせて設定を変更する

電話機やFAXなどを接続していないTELポートが「着信可能」に設定されていると、かかってきた電話がそのTELポートに着信してしまい、回線が話し中にならない場合があります。何も接続していないTELポートがある場合は、本機に接続した電話機を使って、そのTELポートを「使用しない」に設定してください(本機の工場出荷状態では、すべてのTELポートが「発信・着信可能」に設定されています)。

1 電話機の受話器を上げて、「ツー」という発信音を確認して、試しに177などに電話をかけてみる。

電話がつながると、B1ランプまたはB2ランプが点灯します。

電話がつながることを確認したら、いったん受話器を置いて電話を切ります。

2 受話器を上げて、電話機やFAXを接続していないTELポートの設定番号をダイヤルする。

・TEL1ポートに電話機やFAXを接続していない場合：

・TEL2ポートに電話機やFAXを接続していない場合：

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえたときは

設定内容が間違っていたり、設定が正常に行われていません。いったん受話器を置いて、もう1度ダイヤルし直してください。

2

TEL1ポートに電話機やFAXを接続していない場合：

TEL2ポートに電話機やFAXを接続していない場合：

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」（プッシュ）にして操作してください。トーンの機能がない電話機では、設定できません。

ヒント

すべてのTELポートにアナログ機器を接続している場合は、この設定は不要です。

3

受話器を置く。

ヒント

その他の電話機能の設定操作について詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「電話機で設定する」（17ページ）をご覧ください。

インターネットに接続する

本機の「かんたん設定ページ」で接続先を設定して、インターネットに接続します。
フレッツ・ISDNで接続する場合は、「ISDN回線で常時接続する（フレッツ・ISDN接続）」（49ページ）をご覧ください。

設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。

プロバイダの設定資料を用意してください

接続先を設定してインターネットに接続するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です（接続方法によっては、必要のないものもあります）。

- ユーザID（認証ID、アカウント名）
- パスワード（認証パスワード、初期パスワード）
- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス、ネームサーバIPアドレス、DNSサーバIPアドレス）
- ISDN対応アクセスポイントの電話番号
- 回線速度（64kbit/s、128kbit/s MP接続）

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を行うには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerなどのWebブラウザを使用します（お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます）。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows 98SE/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 6.0以降のWebブラウザが必要です。

MacOSの場合

Internet Explorer 5.0以降のWebブラウザが必要です。

ご注意

お使いのパソコンのOSによっては、インストールされているWebブラウザが上記のバージョンよりも古い場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

1　かんたん設定画面を開く

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。
他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1　**本機の電源が入っていることを確認する。**

2　**パソコンでWebブラウザを起動して、［ファイル］メニューから［開く］を選ぶ。**

3　**「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、［OK］をクリックする。**

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されます。

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されないときは

「困ったときは」(CD-ROM)の「3-1 かんたん設定ページを表示できない」をご覧ください。

ヒント

本機のIPアドレス(工場出荷状態では192.168.100.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。この場合は、「http://192.168.100.1/」と入力します。

2　接続方法を指定する

1　［プロバイダ情報の設定］をクリックする。

「プロバイダの設定1/4」画面が表示されます。

2　［ISDN回線で必要に応じて接続／切断を行う端末型接続］をクリックする。

3　［次へ］をクリックする。

「プロバイダの設定2/4」画面が表示されます。

3　プロバイダの情報を指定する

1

設定名を入力する。

接続先がわかるような名前を入力します。名前は自由に付けられますが、
あとで設定を修正する必要が出たときなどにわかりやすい名前にしておくと便利です。

2

電話番号を入力する。

ISDNに対応したアクセスポイントの電話番号を入力します。
複数ある場合は、2つまで入力できます。

3

ユーザIDを入力する。

プロバイダから指定された、接続用のユーザIDを入力します。ユーザIDはメールアドレスとは異なる場合がありますので、必ず書類を確認して、間違いのないように入力してください。

ユーザIDが「username」の場合の例：

username（ユーザー IDのみの場合）
username@aaa（サブドメインが付加される場合）
username#AB123（識別番号が付加される場合）

4

接続パスワードを入力する。

プロバイダから指定されたパスワード（または自分で変更したパスワード）を入力します。
半角英数字で、大文字小文字も正確に入力してください。
入力したパスワードの文字は●で表示されます。

5

［次へ］をクリックする。

「プロバイダの設定3/4」画面が表示されます。

4　DNSサーバアドレスを指定する

1

DNSサーバアドレスを指定する。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合

「DNSサーバアドレスを指定しない、またはプロバイダから自動取得」をクリックして選びます。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合

「プロバイダとの契約書にDNSサーバアドレスの指定がある」をクリックして選んでから、以下の設定を行います。

- **プライマリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスを半角数字で入力します。
- **セカンダリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスが2つある場合に入力します（1つだけ指定されている場合は、この欄は空欄にしてください）。

2

［次へ］をクリックする。

「プロバイダの設定4/4」画面が表示されます。

5　設定内容を確認する

1

表示された設定内容が、プロバイダから送付された設定資料と合っているかどうか確認する。

誤って設定した内容がある場合は、[戻る]をクリックして必要な設定画面を表示して、正しく設定し直してください。

2

[設定の確定]をクリックする。

「プロバイダの登録」画面が表示されます。

6　インターネットに接続する

1

［接続］をクリックする。

インターネットに接続して、「プロバイダへの接続・切断」画面が表示されます。
［トップへ戻る］をクリックすると、「かんたん設定ページ」のトップページに戻ります。

2

インターネットに接続しているかどうか確認する。

画面下部の表示を見て、本機がインターネットに接続していることを確認してください。

設定終了

これでインターネットへの接続設定は終了です

▶インターネットに接続できない場合は

Check 1　本機とパソコン、ISDN回線への接続を確認してください。
Check 2　34ページのスイッチの設定を確認してください。
Check 3　45～46ページの設定内容をもう1度確認してください。
Check 4　それでも問題が解決しない場合は、「困ったときは」(CD-ROM)を参考にして、問題を解決してください。

第4章

ISDN回線で常時接続する

（フレッツ・ISDN接続）

準備1

ISDN回線を接続する

本機のDSUを使って接続する

通常はこの方法で接続します。

1 TERMスイッチを「ON」に合わせる。

2 DSUスイッチを「ON」に合わせる。

3 回線のモジュラージャックと本機のISDN Uポートを、モジュラーケーブルで接続する。

本機のDSUを使って接続した場合に、他のISDN機器を接続したいときは

RT57i用クロスケーブル YRC-ST3X（別売り）を使用して、ISDN回線に接続したRT57iのISDN S/Tポートに TAやG4 FAXなどのデジタル通信機器を接続できます。

ご注意

- RT57iのISDN S/Tポートは給電に対応していませんので、給電を必要とする機器を接続しても正しく動作しません。
- YRC-ST3Xを使用する場合は、RT57iのTERMスイッチを「ON」、RT57iに接続したISDN機器の終端抵抗を「ON」にします。複数のISDN機器を接続する場合は、最遠端の機器のみ終端抵抗を「ON」にします。
- 詳しい接続方法については、YRC-ST3Xの取扱説明書をご覧ください。

ヒント
モジュラーケーブルは、市販の電話用ケーブルが使用できます(2極用、4極用、6極用いずれも可)。ただし、ビジネスホン専用の特殊な結線のケーブルは使用できません。

第4章 ISDN回線で常時接続する（フレッツ・ISDN接続）

他のISDN機器のDSUを使って接続する

1 本機のみの接続の場合は、TERMスイッチを「ON」に合わせる。

複数のISDN機器を接続する場合は、最遠端の機器のみ終端抵抗を「ON」にします。

2 DSUスイッチを「OFF」に合わせる。

3 DSU（または他のISDN機器のS/Tポート）と本機のISDN S/Tポートを、ISDNケーブルで接続する。

準備2

パソコンと電話機を接続する

1 アース端子に市販のアースコードを接続する。

アース端子のネジを⊕ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定します。

ご注意

- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

2 パソコンのLANポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに接続したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

電話機、ファックス

ヒント

・パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T / 100BASE-TX 対応のLANケーブルをご用意ください。
・5台以上のパソコンを接続する場合は、10BASE-T/ 100BASE-TX 対応のHUB（またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、本機のDHCPサーバ機能を動作しないようにする必要があります。詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。

ケーブルはスタンドの溝に収めておく。

接続が終わったら、スタンドを元通りに取り付けます。

3 電話機を本機のTELポートに接続する。

電話機を本機に接続すると、ISDN回線を利用した通常の通話に加えて、VoIP通話機能を利用できます。詳しくは、別冊の「活用マニュアル」の「第3章 インターネット経由で通話する(VoIP通話)」(24ページ)をご覧ください。

ご注意

・本機に接続した電話機は、停電時には通話できません。停電時に110や119などの緊急通話が必要な場合は、別回線の電話機や携帯電話などをお使いください。
・停電時にVoIP通話機能を使用することはできません。
・VoIP通話機能で110や119などの緊急通話をすることはできません。
・各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は、正しく動作しません。

準備3

電源を入れる

1 アースコードをコンセントのアース端子へ接続する。

ご注意

- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

2 付属のACアダプタ（P9V1.1A）のコネクタを本機の電源コネクタに接続してから、ACアダプタをコンセントに接続する。

しばらくするとブザーが鳴り、本機の電源が入ります。

ご注意

ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

ブザーが鳴らない場合は

本機をお買い上げになった販売店にご連絡ください。

ACアダプタを取り外す場合は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

3

3 パソコンやHUBの電源を入れて、本機のLANランプとISDNランプが点灯または点滅することを確認する。

本機のLANランプとISDNランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

ISDNランプが点灯しない場合は

本機とISDN回線が正しく接続されているかどうか、本機のスイッチが正しく設定されているかどうか確認してください。

ご注意

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は「手動でネットワーク設定を変更する」(87ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

準備4

接続した電話機やFAXにあわせて設定を変更する

電話機やFAXなどを接続していないTELポートが「着信可能」に設定されていると、かかってきた電話がそのTELポートに着信してしまい、回線が話し中にならない場合があります。何も接続していないTELポートがある場合は、本機に接続した電話機を使って、そのTELポートを「使用しない」に設定してください(本機の工場出荷状態では、すべてのTELポートが「発信・着信可能」に設定されています)。

1

電話機の受話器を上げて、「ツー」という発信音を確認して、試しに177などに電話をかけてみる。

電話がつながると、B1ランプまたはB2ランプが点灯します。

電話がつながることを確認したら、いったん受話器を置いて電話を切ります。

2

受話器を上げて、電話機やFAXを接続していないTELポートの設定番号をダイヤルする。

・TEL1ポートに電話機やFAXを接続していない場合：

・TEL2ポートに電話機やFAXを接続していない場合：

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえたときは

設定内容が間違っていたり、設定が正常に行われていません。いったん受話器を置いて、もう1度ダイヤルし直してください。

2

TEL1ポートに電話機やFAXを接続していない場合：

TEL2ポートに電話機やFAXを接続していない場合：

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。トーンの機能がない電話機では、設定できません。

ヒント

すべてのTELポートにアナログ機器を接続している場合は、この設定は不要です。

3

受話器を置く。

ヒント

その他の電話機能の設定操作について詳しくは、「活用マニュアル」(別冊)の「電話機で設定する」(17ページ)をご覧ください。

インターネットに接続する

本機の「かんたん設定ページ」で接続先を設定して、インターネットに接続します。
必要に応じてダイヤルアップ接続する場合は、「必要なときだけ電話をかけて接続する(端末型ダイヤルアップ接続)」(33ページ)をご覧ください。

設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 セキュリティを強化する」(74ページ)をご覧ください。

プロバイダの設定資料を用意してください

接続先を設定してインターネットに接続するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です(接続方法によっては、必要のないものもあります)。

- ユーザID（認証ID、アカウント名）
- パスワード(認証パスワード、初期パスワード)
- ネームサーバアドレス(DNSサーバアドレス、ネームサーバIPアドレス、DNSサーバIPアドレス)
- フレッツ・ISDN用アクセスポイントの電話番号(1492)

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を行うには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerなどのWebブラウザを使用します(お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます)。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows 98SE/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 6.0以降のWebブラウザが必要です。

MacOSの場合

Internet Explorer 5.0以降のWebブラウザが必要です。

ご注意

お使いのパソコンのOSによっては、インストールされているWebブラウザが上記のバージョンよりも古い場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

1　かんたん設定画面を開く

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。
他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1　**本機の電源が入っていることを確認する。**

2　**パソコンでWebブラウザを起動して、[ファイル]メニューから[開く]を選ぶ。**

3　**「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。**

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されます。

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されないときは

「困ったときは」(CD-ROM)の「3-1 かんたん設定ページを表示できない」をご覧ください。

ヒント

本機のIPアドレス(工場出荷状態では192.168.100.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。この場合は、「http://192.168.100.1/」と入力します。

2 接続方法を指定する

1 ［プロバイダ情報の設定］をクリックする。

「プロバイダの設定 1/4」画面が表示されます。

2 ［端末型フレッツ・ISDN（ISDN回線による端末型プロバイダ接続）］をクリックする。

3 ［次へ］をクリックする。

「プロバイダの設定2/4」画面が表示されます。

3　プロバイダの情報を指定する

1

設定名を入力する。

接続先がわかるような名前を入力します。名前は自由に付けられますが、
あとで設定を修正する必要が出たときなどにわかりやすい名前にしておくと便利です。

2

自分の電話番号を入力する。

フレッツ・ISDNでは、接続認証のために自分の電話番号を通知する必要があります。

3

電話番号欄に「1861492」と入力する。

本機の設定や電話会社との契約によっては、手順2で入力した自分の電話番号が通知されないため、フレッツ・ISDN接続できない場合があります。この問題を避けるために、フレッツ・ISDNの電話番号「1492」の前に「186」(自分の電話番号を相手先に通知する)を入力します。

4

ユーザIDを入力する。

プロバイダから指定された、フレッツ・ISDN接続用のユーザIDを入力します。必ず書類を確認して、間違いのないように入力してください。

ユーザIDがusernameの場合の例：

username@provider.ne.jp

username@aaa.provider.ne.jp（サブドメインが付加される場合）

5

接続パスワードを入力する。

プロバイダから指定されたパスワード(または自分で変更したパスワード)を入力します。
半角英数字で、大文字小文字も正確に入力してください。
入力したパスワードの文字は●で表示されます。

6

[次へ]をクリックする。

「プロバイダの設定3/4」画面が表示されます。

4　DNSサーバアドレスを指定する

1

DNSサーバアドレスを指定する。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合

「DNSサーバアドレスを指定しない、またはプロバイダから自動取得」をクリックして選びます。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合

「プロバイダとの契約書にDNSサーバアドレスの指定がある」をクリックして選んでから、以下の設定を行います。

- **プライマリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスを半角数字で入力します。
- **セカンダリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスが2つある場合に入力します(1つだけ指定されている場合は、この欄は空欄にしてください)。

2

［次へ］をクリックする。

「プロバイダの設定4/4」画面が表示されます。

5　設定内容を確認する

1

表示された設定内容が、プロバイダから送付された設定資料と合っているかどうか確認する。

誤って設定した内容がある場合は、[戻る]をクリックして必要な設定画面を表示して、正しく設定し直してください。

2

[設定の確定]をクリックする。

「プロバイダの登録」画面が表示されます。

6　インターネットに接続する

1

［接続］をクリックする。

インターネットに接続して、「プロバイダへの接続・切断」画面が表示されます。
［トップへ戻る］をクリックすると、「かんたん設定ページ」のトップページに戻ります。

2

インターネットに接続しているかどうか確認する。

画面下部の表示を見て、本機がインターネットに接続していることを確認してください。

設定終了

これでインターネットへの接続設定は終了です

▶インターネットに接続できない場合は

Check 1　本機とパソコン、ISDN回線への接続を確認してください。
Check 2　50ページのスイッチの設定を確認してください。
Check 3　61～62ページの設定内容をもう1度確認してください。
Check 4　それでも問題が解決しない場合は、「困ったときは」(CD-ROM)を参考にして、問題を解決してください。

第5章

ネットワーク型接続サービスで常時接続する

(ネットワーク型ADSL・Bフレッツ接続)

unnumbered接続を使用する場合も、この章をご覧ください。フレッツ・ADSLやBフレッツなどの各種ADSL接続サービスや光ファイバ接続サービスで、IPアドレスを1つだけ割り当てられるサービスを使用する場合は、「第2章 ブロードバンド回線で常時接続する」(17ページ)をご覧ください。

準備1

ブロードバンド回線とパソコン・電話機を接続する

1
アース端子に市販のアースコードを接続する。

アース端子のネジを⊕ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定します。

ご注意

- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

2
パソコンのLANポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに接続したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

ヒント

・パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T / 100BASE-TX 対応のLANケーブルをご用意ください。
・5台以上のパソコンを接続する場合は、10BASE-T/ 100BASE-TX対応のHUB（またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、本機のDHCPサーバ機能を動作しないようにする必要があります。詳しくはネットワークの管理者にご相談ください。

3 電話機を本機のTELポートに接続する。

電話機を本機に接続すると、VoIP通話機能を利用できます。詳しくは、別冊の「活用マニュアル」の「第3章 インターネット経由で通話する(VoIP通話)」(24ページ)をご覧ください。

ご注意

・停電時にVoIP通話機能を使用することはできません。
・VoIP通話機能で110や119などの緊急通話をすることはできません。緊急通話が必要な場合は、別回線の電話機や携帯電話などをお使いください。
・各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は、正しく動作しません。

4 ケーブルモデムやADSLモデム、ONUのLANポートと本機のWANポートを、LANケーブルで接続する。

プロバイダの資料や、ADSLモデム、ONUの取扱説明書もあわせてご覧ください。

準備2

電源を入れる

1 アースコードをコンセントのアース端子へ接続する。

ご注意

- アースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

2 付属のACアダプタ(P9V1.1A)のコネクタを本機の電源コネクタに接続してから、ACアダプタをコンセントに接続する。

しばらくするとブザーが鳴り、本機の電源が入ります。

ご注意

ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

ブザーが鳴らない場合は

本機をお買い上げになった販売店にご連絡ください。

ACアダプタを取り外す場合は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

3

3 パソコンやHUBの電源を入れて、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

WANランプが点灯または点滅しない場合は

本機とADSLモデム(またはケーブルモデムやONU)が正しく接続されているかどうか、ADSLモデム(またはケーブルモデムやONU)の電源が入っているかどうか確認してください。

ご注意

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は「手動でネットワーク設定を変更する」(87ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

インターネットに接続する

本機の「かんたん設定ページ」で接続先を設定して、インターネットに接続します。

設定する前に

ご注意

・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
・インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 セキュリティを強化する」(74ページ)をご覧ください。

プロバイダの設定資料を用意してください

接続先を設定してインターネットに接続するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です(接続方法によっては、必要のないものもあります)。

・ユーザID(認証ID、アカウント名)
・パスワード(認証パスワード、初期パスワード)
・IPアドレス
・ネットマスク
・ネームサーバアドレス(DNSサーバアドレス、ネームサーバIPアドレス、DNSサーバIPアドレス)
・デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を行うには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerなどのWebブラウザを使用します(お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます)。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows 98SE/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 6.0以降のWebブラウザが必要です。

MacOSの場合

Internet Explorer 5.0以降のWebブラウザが必要です。

ご注意

お使いのパソコンのOSによっては、インストールされているWebブラウザが上記のバージョンよりも古い場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

1　かんたん設定画面を開く

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。
他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1

本機の電源が入っていることを確認する。

2

パソコンでWebブラウザを起動して、[ファイル]メニューから[開く]を選ぶ。

3

「http://setup.netvolante.jp/」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されます。

「かんたん設定ページ」のトップページが表示されないときは

「困ったときは」(CD-ROM)の「3-1 かんたん設定ページを表示できない」をご覧ください。

ヒント

本機のIPアドレス(工場出荷状態では192.168.100.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。この場合は、「http://192.168.100.1/」と入力します。

2　LANポートにIPアドレスを割り当てる

1　**[詳細設定と情報]をクリックする。**

「詳細設定と情報」画面が表示されます。

2　**[LANの設定(IPアドレス、DHCPサーバ)]をクリックする。**

「LANの設定」画面が表示されます。

3 LANポートのIPアドレスを入力する。

セカンダリ・IPアドレス

現在[プライマリ・IPアドレス]欄に表示されているプライベートIPアドレスとネットマスク(工場出荷状態では192.168.100.1/24)を入力する。

プライマリ・IPアドレス

プロバイダから割り当てられたIPアドレスの中から、ルータに設定するIPアドレスとネットマスクを入力する。

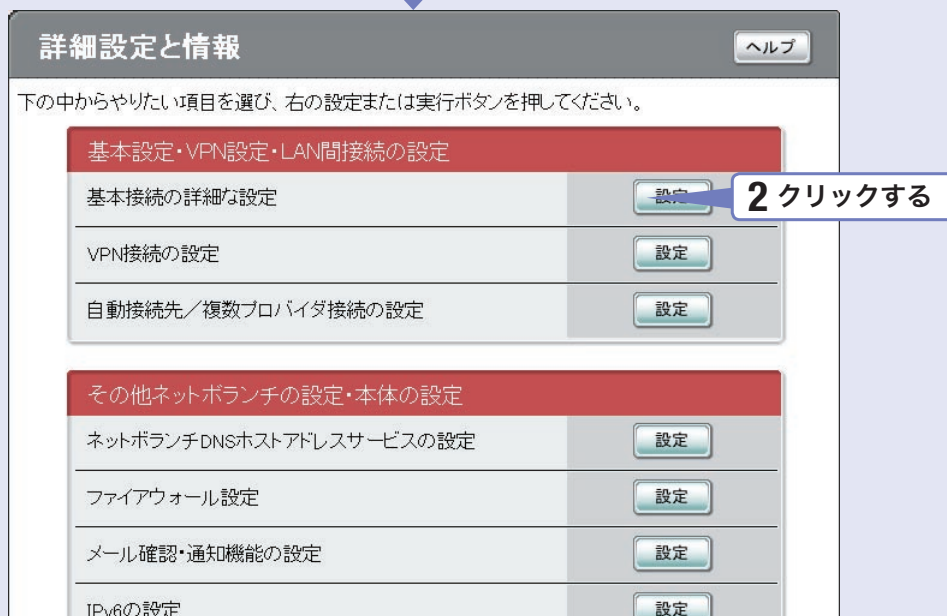
ヒント

LAN側をプライベートアドレスで利用する場合は、LANポートのIPアドレスの設定を変更する必要はありません。

4 [設定の確定]をクリックする。

確認画面が表示されます。
[実行]をクリックして画面の説明に従って操作を行なうと、「かんたん設定ページ」のトップページに戻ります。

3　接続方法を指定する

1

［詳細設定と情報］をクリックする。

「詳細設定と情報」画面が表示されます。

2

［基本接続の詳細な設定］をクリックする。

「設定可能なプロバイダ」画面が表示されます。

3 ［追加］をクリックする。

「プロバイダの登録」画面が表示されます。

4 ［PPPoEを用いるネットワーク型ADSL接続］をクリックする。

5 ［次へ］をクリックする。

「プロバイダの登録」画面が表示されます。

4　プロバイダの情報を指定する

第5章
PPPoEネットワーク型ADSLで常時接続する

1 設定名を入力する。

接続先がわかるような名前を入力します。名前は自由に付けられますが、
あとで設定を修正する必要が出たときなどにわかりやすい名前にしておくと便利です。

2 ユーザIDを入力する。

プロバイダから指定された、接続用のユーザIDを入力します。必ず書類を確認して、間違いのないように入力してください。

ご注意

フレッツ・ADSLやBフレッツで接続する場合は、ユーザIDの後にプロバイダ名を入力する必要があります。詳しくはフレッツ・ADSLまたはBフレッツの契約の際にNTTから送付された資料や、プロバイダからの資料をご覧ください。

ユーザIDがusernameの場合の例：

username@provider.ne.jp
username@aaa.provider.ne.jp（サブドメインが付加される場合）

3 接続パスワードを入力する。

プロバイダから指定されたパスワード(または自分で変更したパスワード)を入力します。
半角英数字で、大文字小文字も正確に入力してください。
入力したパスワードの文字は●で表示されます。

4 アドレス変換(NAT)の設定を指定する。

動的アドレス変換(NAT)

回線側とLAN側のアドレス変換方法を選びます。

- **NATを使用する：**回線側とLAN側のアドレスを1対1で変換する場合
- **IPマスカレードを使用する：**回線側とLAN側のアドレスを1対多で変換する場合
- **NATとIPマスカレードを併用する：**LAN側の機器にグローバルIPアドレスとプライベートIPアドレスを混在して割り当てる場合
- **使用しない：**アドレス変換を行わない場合

NAT外側アドレス範囲

回線側に割り当てる共用グローバルIPアドレスを入力します。

NAT内側アドレス範囲

アドレス変換を行うプライベートIPアドレスの範囲を入力します。

5 DNSサーバアドレスを指定する。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合

「接続時に自動取得する」を選びます。

プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合

「IPアドレスを指定する」を選んでから、以下の設定を行います。

- **プライマリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスを半角数字で入力します。
- **セカンダリDNSサーバアドレス：**プロバイダから指定されているDNSサーバアドレスが2つある場合に入力します(1つだけ指定されている場合は、この欄は空欄にしてください)。

プロバイダからドメイン名が指定されている場合

指定されたドメイン名を「DNSドメイン名」欄に入力します。

5　インターネットに接続する

1　**［設定の確定］をクリックする。**

「プロバイダの登録」画面が表示されます。

2　**［トップへ戻る］をクリックする。**

自動的にインターネットに接続して、「かんたん設定ページ」のトップページに戻ります。

3　**インターネットに接続しているかどうか確認する。**

画面下部の表示を見て、本機がインターネットに接続していることを確認してください。

設定終了

これでインターネットへの接続設定は終了です

▶インターネットに接続できない場合は

Check 1　本機とパソコン、ADSLモデムやケーブルモデムの接続を確認してください。

Check 2　72～77ページの設定内容をもう1度確認してください。

Check 3　それでも問題が解決しない場合は、「困ったときは」(CD-ROM)を参考にして、問題を解決してください。

第6章

その他の情報

Other Information

手動でネットワーク設定を変更する

お使いのパソコンから「かんたん設定」画面が正しく表示できない場合は、手動でネットワーク機能の設定を変更する必要があります。ネットワーク機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

Windows 98SE/Meの場合

Windows 98SE/Meの場合は、次の手順でネットワーク設定を変更します。LANボードやLANカードが装着されていないときは、あらかじめLANボードやLANカードを装着して、正しく動作するかどうかご確認ください。

ご注意

・プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

・設定を始める前にLANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、あらかじめボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

第6章 その他の情報

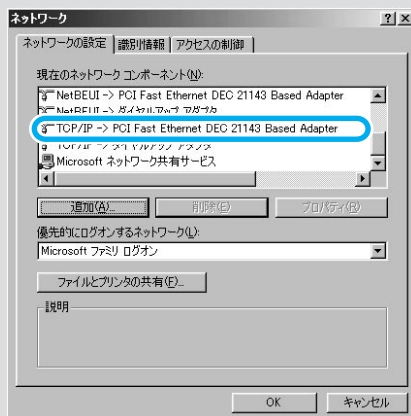
1

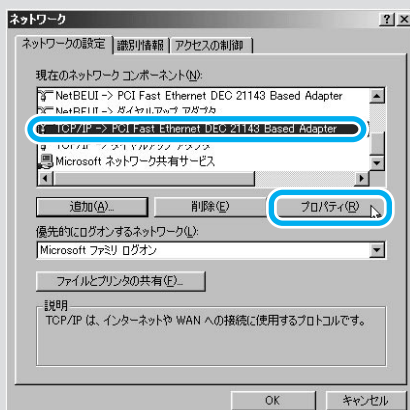
[スタート]ボタンをクリックして、[設定]−[コントロールパネル]を クリックする。

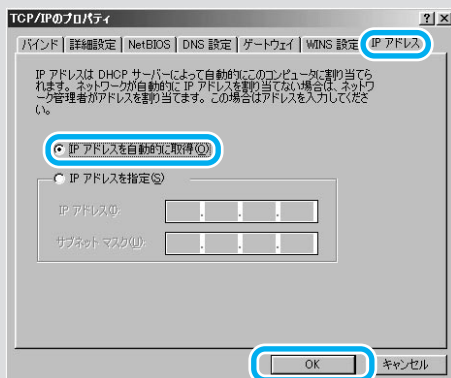
2

[ネットワーク]アイコンをダブルクリックして、リストに「TCP/IP->(ネットワークボード名)」が表示されているかどうか確認する。

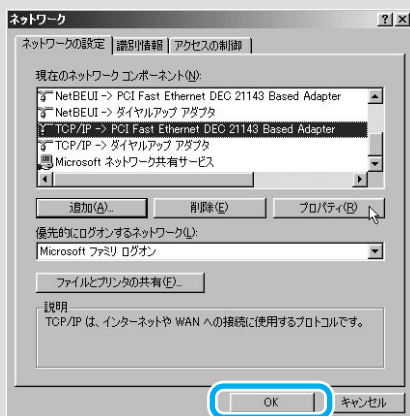
「TCP/IP->(ネットワークボード名)」が表示されていない場合は

[追加]をクリックして、[プロトコル]の追加からMicrosoftの[TCP/IP]をクリックして、追加してください。

3

[TCP/IP->（ネットワークボード名）]を選んでから、[プロパティ]をクリックする。

4

[IPアドレス]タブをクリックしてから[IPアドレスを自動的に取得]を選び、[OK]をクリックする。

5

[OK]をクリックする。

設定を変更した場合は、パソコンを再起動してください。

Windows 2000の場合

Windows 2000の場合は、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。LANボードやLANカードが装着されていないときは、先にLANボードやLANカードを装着して、正しく動作するかどうかご確認ください。
Windows 2000のネットワーク設定を行うには、管理者（Administrators）グループの権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

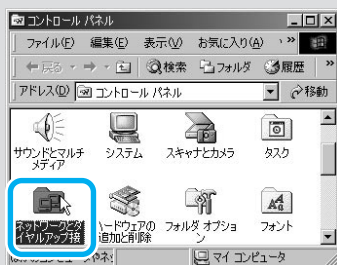
ご注意

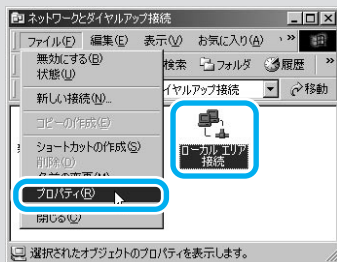
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前にLANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

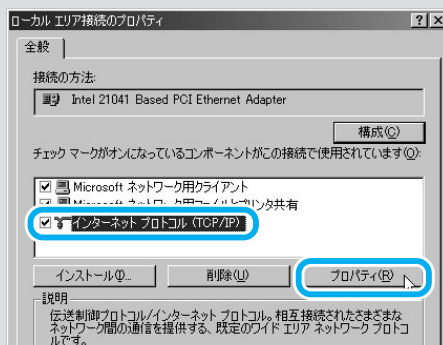
1

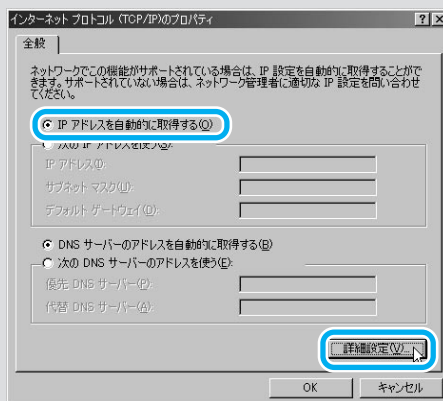
［スタート］ボタンをクリックして、［設定］–［コントロールパネル］をクリックする。

2

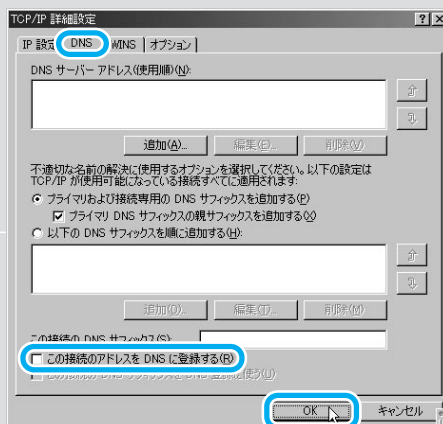
［ネットワークとダイヤルアップ接続］をダブルクリックする。

3

本機を接続しているネットワークボード名の［ローカルエリア接続］をクリックして選んでから、［ファイル］メニューから［プロパティ］を選ぶ。

4

リストの[インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選んでから、[プロパティ]をクリックする。

5

[IPアドレスを自動的に取得する]を選んでから、[詳細設定]をクリックする。

6

[DNS]タブをクリックしてから[この接続のアドレスをDNSに登録する]のチェックを外し、[OK]をクリックする。

[TCP/IP詳細設定]画面が閉じます。

7

[OK]を何回かクリックして、「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面と「ローカルエリア接続のプロパティ」画面を閉じる。

Windows XPの場合

Windows XPの場合は、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。LANボードやLANカードが装着されていないときは、先にLANボードやLANカードを装着して、正しく動作するかどうかご確認ください。

Windows XPのネットワーク設定を行うには、管理者(Administrators)グループの権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前にLANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

1

［スタート］ボタンをクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。

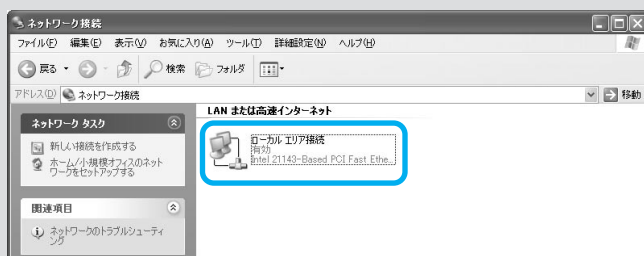
2

［ネットワークとインターネット接続］をクリックする。

3

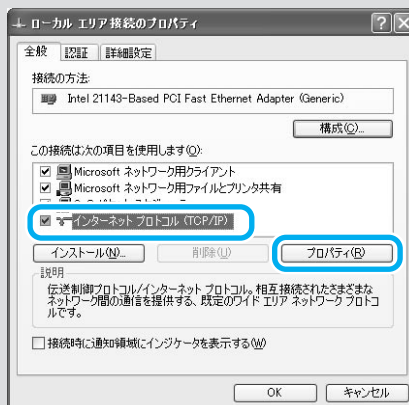
［ネットワーク接続］をクリックする。

4

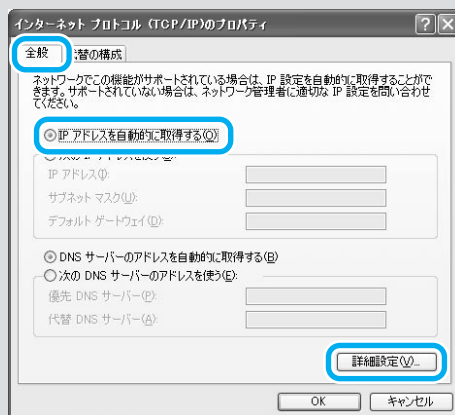
［ローカルエリア接続］のアイコンをクリックする。

5

［この接続の設定を変更する］をクリックする。

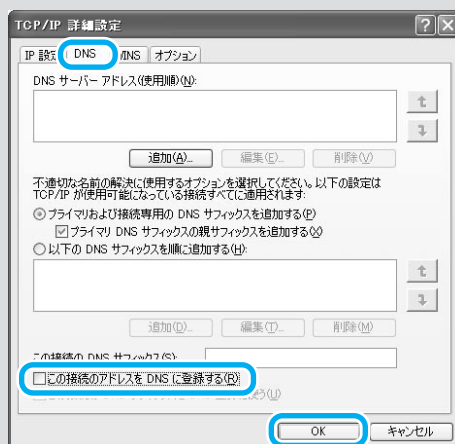
6

［ インターネットプロトコル(TCP/IP)］を選んでから、［プロパティ］をクリックする。

次のページにつづく→

7

[全般]タブをクリックして[IPアドレスを自動的に取得する]を選んでから、[詳細設定]をクリックする。

8

[DNS]タブをクリックしてから[この接続のアドレスをDNSに登録する]のチェックを外し、[OK]をクリックする。

[TCP/IP詳細設定]画面が閉じます。

9

[OK]を何回かクリックして、「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面と「ローカルエリア接続のプロパティ」画面を閉じる。

Mac OS 9.xの場合

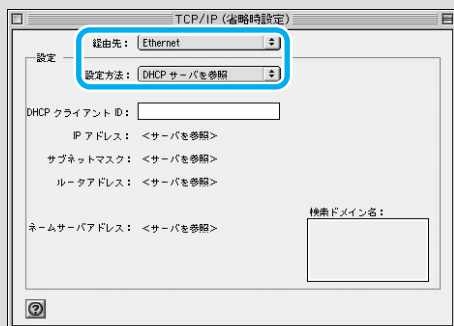
MacOSでは、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。ネットワーク機能の設定の変更は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。
ここでは、[TCP/IP]コントロールパネルを例に説明します。

ご注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

1

アップルメニューから[コントロールパネル]–[TCP/IP]を選び、以下のように設定する。

- **経由先：**Ethernet
- **設定方法：**DHCPサーバを参照

2

設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

3

[保存する]をクリックする。

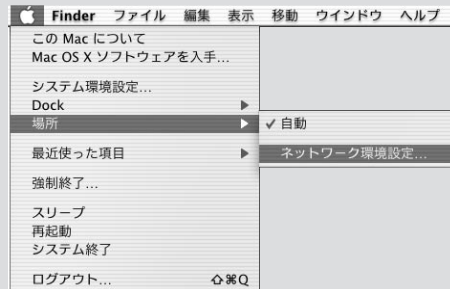
Mac OS Xの場合

Mac OS Xでは、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。ネットワーク機能の設定の変更は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

ご注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

1

アップルメニューから[場所]–[ネットワーク環境設定]を選ぶ。

2

以下のように設定してから、[今すぐ適用]をクリックする。

- **場所：**自動
- **設定：**内蔵Ethernet（標準のLANポート使用時のみ）
- **設定：**DHCPサーバを参照

設定後は、[IPアドレス]がルータに設定したDHCPの割り当て範囲(工場出荷状態では192.168.100.2～192.168.100.191)になっていることを確認してください。

RTAssistを活用する

付属のWindows用ソフトウェア「RTAssist」を使って、LAN上のパソコンから手動で接続／切断したり、接続状態や通信記録、料金情報を確認したりすることができます。RTAssistの機能について詳しくは、添付のReadmeファイルや、「お読みください」をご覧ください。

RTAssistを使用する前に

RTAssistがインストールされていることを確認してください。

ご注意

- 本機を「かんたん設定ページ」（コマンド入力を除く）で設定した場合のみ、本機をRTAssistで操作できます。
- RTAssistはtelnetにより制御を行います。RTAssist起動中は、他のtelnetソフトウェアで本機にアクセスすることはできません。同様に、telnetソフトウェアで本機にアクセスしている間は、RTAssistは使用できません。
- RTAssist起動中は、「かんたん設定ページ」やコマンド、その他の方法による本機の設定変更は行わないでください。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RTAssistが正しく動作しないことがあります。その場合は、「かんたん設定ページ」のトップページで接続や切断の操作を行ってください。

RTAssistをインストールする

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、［InstAsst］アイコンをダブルクリックする。

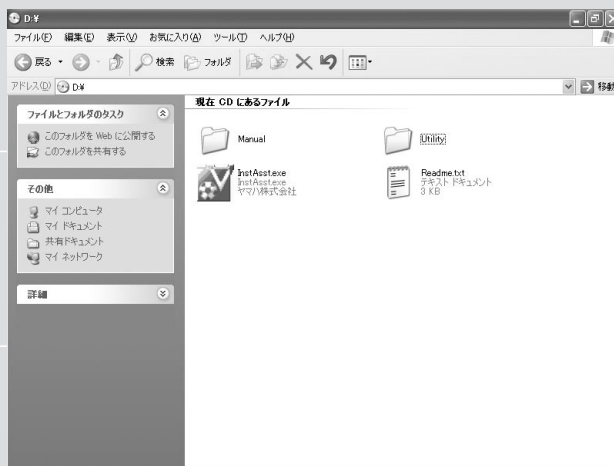
2

画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

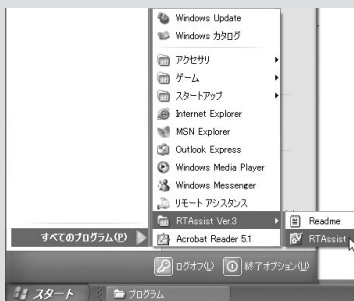
インストールが終わったら、［完了］をクリックする。

これでRTAssistのインストールは完了です。

RTAssistを起動する／終了する

1

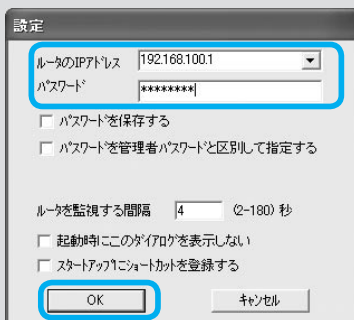
［スタート］メニューをクリックして、［すべてのプログラム］－［RTAssist Ver.3］－［RTAssist］をクリックする。

RTAssistが起動します。

Windows XP以外のWindowsを使用している場合は、［すべてのプログラム］の代わりに［プログラム］をクリックします。

2

［ルータのIPアドレス］と［パスワード］を入力してから、［OK］をクリックする。

「RTAssist」画面が表示されます。

［パスワードを保存する］と［起動時にこのダイアログを表示しない］、［スタートアップにショートカットを登録する］の項目にすべてチェックを付けると、パソコンの起動と同時にRTAssistが自動的に起動します。

3

RTAssistを閉じる場合は、［終了］をクリックする。

手動で接続する／切断する

登録したプロバイダに手動で接続するときは、次の手順で操作します。

1

RTAssistを起動する。

2

接続したいプロバイダを選んでから、［接続］をクリックする。

プロバイダに接続すると、プロバイダ名やアクセスポイントの番号、接続時間が表示されます。

手動で切断するときは

RTAssistを起動してから、［切断］をクリックする。

切断すると、プロバイダの表示が消えます。

接続状態を確認する

RTAssistを起動する。

インターネット接続状態が表示されます。

料金情報を確認する（ISDN回線使用時のみ）

接続先ごとや各ポートごとの累積料金を確認できます。

RTAssistを起動してから、［通信情報］をクリックする。

各接続先ごとや各ポートごとの累積料金が表示されます。

ヒント

通信料金は、NTTから通知される料金を累積して表示しています。
NTTから通知される料金は少数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスやNTT以外の回線業者の料金が反映されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安と考えてください。

パソコンのネットワーク情報を確認する

パソコンのOSや使用しているEthernetアダプタ、WINSサーバ、ルーティング情報、LmHostsファイルなどの情報を確認できます。

1

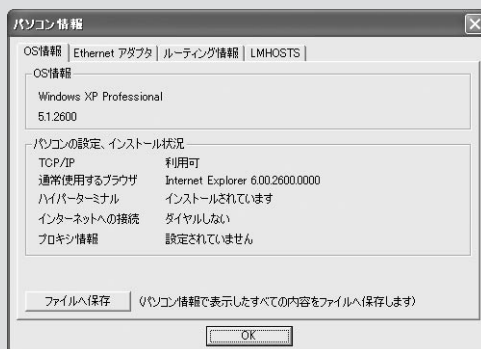
RTAssistを起動してから、［パソコン情報］をクリックする。

「パソコン情報」画面が表示されます。

2

確認したい情報のタブをクリックする。

パソコンの情報が表示されます。
［ファイルに保存］をクリックして、表示された情報をファイルに保存することもできます。

第6章 その他の情報

本機の設定を保存する

本機の設定や通信記録を、パソコンのテキストファイルとして保存できます。

ご注意

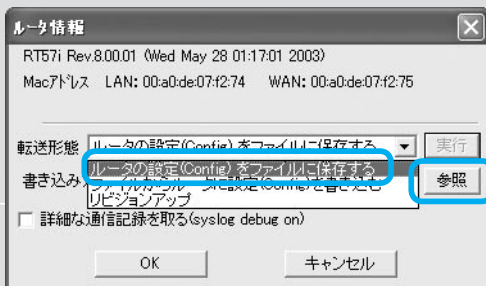
・保存したファイルには、ユーザIDやパスワードなどの重要な情報が含まれています。取り扱いには十分ご注意ください。
・トラブル発生時にそなえて、これらの情報を保存しておくことをおすすめします。

1

RTAssistを起動してから、［ルータ情報］をクリックする。

「ルータ情報」画面が表示され、本機のファームウェアのリビジョン番号や、MACアドレスが表示されます。

2

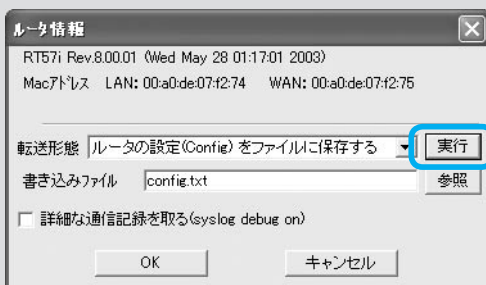
［転送形態］から［ルータの設定(Config)をファイルに保存する］を選んでから、［参照］をクリックする。

3

保存先とファイル名を指定してから、［保存］をクリックする。

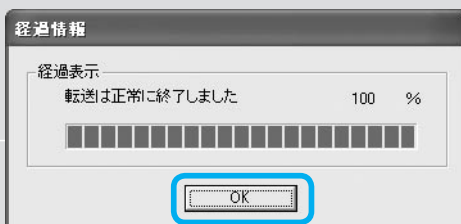
4

［実行］をクリックする。

手順2で選んだ内容が、パソコンにテキストファイルとして保存されます。
保存したファイルの内容は、メモ帳(Windows)やテキストエディット(Mac OS X)などで確認できます。

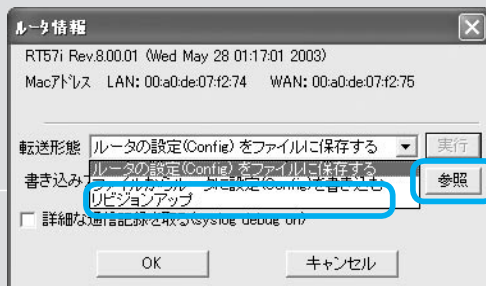
5

［OK］をクリックして、「経過情報」画面を閉じる。

6

［OK］をクリックして、「ルータ情報」画面を閉じる。

本機のファームウェアを更新する

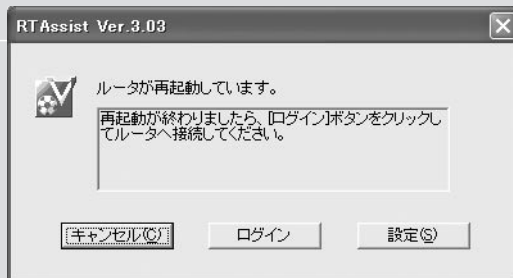
本機のファームウェアのリビジョンアップは、「リビジョンアップの実行」画面で行うことができますが、β版のファームウェアを利用したいときは、以下の方法でファームウェアのバイナリファイルを本機に転送する必要があります。
通常のリビジョンアップの方法については、「活用マニュアル」(別冊)の「最新の機能を利用する(リビジョンアップ)」(127ページ)をご覧ください。

1
RTAssistを起動してから、[ルータ情報]をクリックする。
「ルータ情報」画面が表示され、本機のファームウェアのリビジョン番号や、MACアドレスが表示されます。

2
[転送形態]から[リビジョンアップ]を選んでから、[参照]をクリックする。

3
転送したいファイル名を指定してから、[開く]をクリックする。

4
[実行]をクリックする。
ファイルが転送されます。

5
[OK]をクリックして、「経過情報」画面を閉じる。
ルータが再起動します。

6
ルータの再起動が終わったら、[ログイン]をクリックする。
RTAssistの通常画面に戻ります。

プロバイダを変更する

これまでインターネット接続に利用していたプロバイダの契約を停止して、新しいプロバイダを接続先として変更する際は、「プロバイダの登録/修正」画面で接続先を変更することをおすすめします。接続先と同時にオプション項目も同時に指定できるため、便利です。

1

「かんたん設定ページ」のトップページで、[詳細設定と情報]をクリックする。

2

「基本接続の詳細な設定」の[設定]をクリックする。

3

修正したい接続先の[設定]をクリックする。

4

新しいプロバイダから通知された内容に合わせて、設定を変更する。

5

[設定の確定]をクリックする。

プロバイダ変更の設定はこれで終了です。

FUSION IP-Phoneサービスを利用する

本機はフュージョン・コミュニケーションズ株式会社のIP加入電話サービス「FUSION IP-Phone」(有料)に対応しています。FUSION IP-Phoneを利用すると、本機をVoIPアダプタとして使用できます。
本機で利用できるIP電話サービスの最新情報については、NetVolanteホームページ(http://NetVolante.jp/)をご覧ください。

本機でFUSION IP-Phoneサービスを利用する場合のご注意

- IP電話サービス事業者のサービスを利用すると、追加で課金される場合があります。詳しくは事業者にご確認ください。
- 本機でIP電話サービスの累積課金情報を確認することはできません。
- 110/118/119をダイヤルすると、プレフィックスの設定は無視されて一般回線網へ接続します。
- VoIP通話はIP網を経由するため、ベストエフォートのサービスとなります。そのため、遅延やエコー、音切れの可能性がありますが、あらかじめご了承ください。
- プロバイダへの接続とIP電話サービス(SIPサーバ)への接続は別の操作のため、それぞれ接続操作を行う必要があります。
- SIPサーバは最大32個まで登録できます。
- SIPサーバと接続されていない場合、相手から発信すると話中音になります。

FUSION IP-Phoneサービスを利用するには

以下の順で準備します。

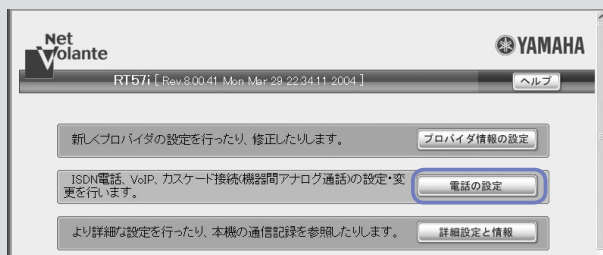
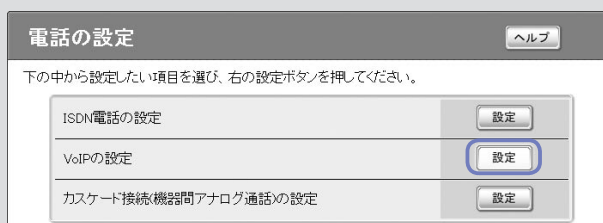
1. VoIP通話を使えるようにする(97ページ)
2. IP電話サーバを登録する

1.VoIP通話を使えるようにする

「VoIPの基本設定」画面で、VoIP通話を利用できるように設定を変更します。

1

「かんたん設定ページ」のトップページで、［電話の設定］をクリックする。

2

「VoIPの設定」の［設定］をクリックする。

3

「VoIPの基本設定」の［設定］をクリックする。

4
「VoIP機能」欄で、[使用する]をクリックして選ぶ。

5
接続プロバイダを選択する。

あらかじめ設定したGOLのプロバイダ設定を選択します。

6
「TEL1ポートの設定」および「TEL2ポートの設定」の「電話ユーザ名」欄に、電話ユーザ名を半角英数字で入力する。

フュージョン・コミュニケーションズ株式会社から通知された電話ユーザ名(815055 で始まる12桁の番号)を入力します。

7
[設定の確定]をクリックする。

設定変更と再起動の確認画面が表示されます。

8
[実行]をクリックする。

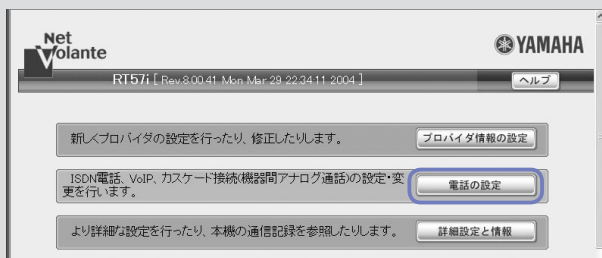
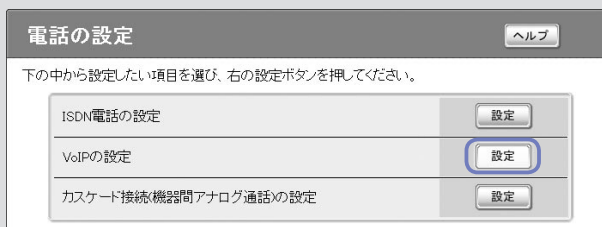
VoIPの設定が変更されて、本機が再起動します。再起動が終わったら[トップへ戻る]をクリックして、「かんたん設定ページ」のトップページに戻ってください。

2.IP電話サーバを登録する

「IP電話サーバの設定」画面で、フュージョン・コミュニケーションズ株式会社から通知された情報を入力します。

1

「かんたん設定ページ」のトップページで、［電話の設定］をクリックする。

2

「VoIPの設定」の［設定］をクリックする。

3

「IP電話サーバの設定」の［設定］をクリックする。

4

［IP電話サーバ自動判別］を選んでから番号入力欄にフュージョン・コミュニケーションズ株式会社から通知されたIP加入電話番号（05055xxxxxx）を入力し、［次へ］をクリックする。

050番号自動判別機能により、フュージョン・コミュニケーションズ系IP電話サーバが選択されたことを示す確認画面が表示されます。

電話の設定　IP電話サーバの設定　ヘルプ
IP電話サーバの新規登録
○ 手動設定
◎ IP電話サーバ自動判別
050番号を入力してください　050 55xxxxxx
次へ　中止

5
［次へ］をクリックする。

6
「ドメイン名」欄に、ドメイン名を半角英数字で入力する。

フュージョン・コミュニケーションズ株式会社から通知されたドメイン名（例：fusion.sip.0038.net）を入力します。

7
「サーバアドレス」欄に、SIPサーバのアドレスを半角英数字で入力する。

フュージョン・コミュニケーションズ株式会社から通知されたSIPサーバのアドレス（例：fusion.sip.0038.net）を入力します。

8
「アカウントID」欄に、アカウントIDを半角英数字で入力する。

フュージョン・コミュニケーションズ株式会社から通知されたアカウントID（815055 で始まる12桁の番号）を入力します。

9
「IP加入電話パスワード」欄に、IP加入電話パスワードを半角英数字で入力する。

フュージョン・コミュニケーションズ株式会社から通知されたIP加入電話パスワードを入力します。

10
［設定の確定］をクリックする。

確認画面が表示されます。

11
［トップへ戻る］をクリックする。

「かんたん設定ページ」のトップページに戻ります。

FUSION IP-Phoneで通話する

準備が終わったら、以下の手順でFUSION IP-Phoneを利用してVoIP通話できます。

電話をかける

受話器を上げて、登録した相手先の電話番号をダイヤルする。
プレフィックスのあとに、電話番号をダイヤルします。受話器から「ププ」とSIP確定音が聞こえてから、呼び出し音に変わります。

電話を受ける

受話器の呼び出し音が鳴ったら、受話器を取る。
通常の電話と違いはありません。

本機を使いこなすために

本機の主な機能については

別冊の「活用マニュアル」をご覧ください。詳細な設定をするための情報が必要な場合は、付属のCD-ROMに収録されている「コマンドリファレンス」(PDF形式)もあわせてご覧ください。

本機を使用中に問題が発生した場合は

付属のCD-ROMに収録されている「困ったときは」(PDF形式)をご覧ください。
以下の問題などを解決する方法が記載されています。

- 電話やFAXが使えない(ISDN接続時)
- かんたん設定ページで設定できない
- インターネットに接続できない
- 通信料金に異常がある
- パスワードを忘れてしまったときは

本機の最新情報を入手するには

本機に関する最新情報は、インターネットのホームページで入手できます。設定に関する初歩的な情報からルータの専門的な情報まで、それぞれの目的別に用意していますので、十分ご活用ください。

- **NetVolanteシリーズのホームページ：**本機やNetVolanteシリーズに関する最新情報をご覧いただけます。
  http://NetVolante.jp/
- **NetVolanteシリーズでお問い合わせの多い質問(FAQ)：**本機やNetVolanteシリーズに関するQ&Aをご覧いただけます。ネットボランチのホームページ(http://NetVolante.jp/)から、必要な情報を入手してください。
- **NetVolanteシリーズのリビジョンアップ情報：**本機やNetVolanteシリーズの最新ファームウェアに関する情報をご覧いただけます。ネットボランチのホームページ(http://NetVolante.jp/)から、必要な情報を入手してください。
- **RTシリーズのホームページ：**RTシリーズのルータに関する最新情報やルータの技術情報、高度な利用方法などをご覧いただけます。
  http://www.rtpro.yamaha.co.jp/

ご質問／お問い合わせは

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

ネットボランチコールセンター
TEL:03-5715-0350
NetVolanteインターネット電話番号
TEL:##62594341
(日・祝日を除く9時～12時、13時～17時)

お問い合わせページ
http://NetVolante.jp/